

「博報賞」

「博報賞」は、児童教育現場の活性化と支援を目的として、財団創立とともにつくられました。「ことばの力を育むことで、子どもたちの成長に寄与したい」そんな想いを核として、日々教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者の「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰しています。

また、その成果の共有、地道な活動の継続と拡大の支援も行っています。

2025年度 第56回「博報賞」受賞者一覧

公益財団法人 **博報堂教育財団**

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル14階 TEL(代表):03-6206-6266(平日9:30～17:30)
財団ホームページ:<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/> E-mail:hakuhoushou@hakuhodo.co.jp

主催 公益財団法人 **博報堂教育財団**

後援 文部科学省

受賞者一覧

(※敬称略・都道府県順)

【博報賞・文部科学大臣賞】

宮城県	早坂 和枝 (大崎市立古川第五小学校 講師)
静岡県	磯部 真代 ^{まさよ} (浜松市立蒲小学校 教頭)
宮崎県	西都銀上学園 西都市立銀上小学 ^{しろかみ} ・銀鏡中学校 ^{しろみ}

【博報賞】

秋田県	小林 陽介 (北秋田市立義務教育学校阿仁学園 校長)
千葉県	柏市立大津ヶ丘第一小学校
神奈川県	特定非営利活動法人 心魂 ^{こころたま} プロジェクト
新潟県	岩船 尚貴 ^{いわふね} (柏崎市立南中学校 教頭)
長野県	大鹿村立大鹿中学校
静岡県	学校法人 ムンド・デ・アレグリア学校
兵庫県	三木市国際交流協会
岡山県	倉敷市立旭丘 ^{あさひがおか} 小学校
岡山県	津山市立西小学校

【功労賞】

青森県	神田 昌彦 ^{まさひこ ひろき} (弘前市立南中学校 校長)
埼玉県	地球っ子グループ
千葉県	きみつ少年少女合唱団
東京都	特定非営利活動法人 しゅわえもん
新潟県	上越市立谷浜小学校
山口県	周南 ^{しゅうなん} 市立八代小学校
熊本県	NPO法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと
宮崎県	都農 ^{つ の} 町立都農中学校

【奨励賞】

群馬県	豊岡 大画 ^{たいが} (太田市立城東 ^{じょうとう} 中学校 教頭)
千葉県	南房総三龍亭
東京都	特定非営利活動法人 メタノイア
神奈川県	湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会
新潟県	樋口 大輔 (新潟市立浜浦小学校 教諭)
福井県	あわら市金津 ^{かなづ} 中学校
静岡県	裾野市東地区おやじの会
愛知県	北名古屋 ^{しかつ} 市立師勝北小学校 学校運営協議会
京都府	京都市立下京雅 ^{しもぎょうみやび} 小学校
京都府	木津川市立泉川 ^{きづがわ いずみがわ} 中学校
奈良県	安里 健志 ^{やすざと たけし} (大和高田市立浮孔 ^{うきあな} 西小学校 教諭)
岡山県	井原市立県主 ^{いばら あがたぬし} 小学校
岡山県	和気 ^{わ け} 町立佐伯小学校
広島県	広島県肢体不自由特別支援学校自立活動研究会 (福山特別支援学校、広島特別支援学校、西条特別支援学校)
宮崎県	西都市立妻南 ^{さいと つみなみ} 小学校

※活動内容につきましては、当財団ホームページに掲載いたします。「博報賞 最新の受賞者」ページにてご確認ください。

【博報賞・文部科学大臣賞】受賞数 3件

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
早坂 和枝 (大崎市立古川第五小学校 講師) (特別支援教育)	宮城県 大崎市	ことばに障がいのある子どもの支援において、早坂氏の「変容の過程」を大切にした実践は重要な意義をもつ。レーダーチャートを用いた実践は児童の自己理解を促し、連絡ファイルや学級通信は「変容の過程」を担う保護者や担任の大きな支えとなっている。「変容の過程」を大切にした実践が、ことばに障がいのある子どもの笑顔と意欲を大きく引き出していることに加えて、自らの実践をまとめ、研究発表や研修会講師を務めるなど後進の育成も積極的に行っており、博報賞に値する優れた実践と高く評価できる。
磯部 真代 (浜松市立蒲小学校 教頭) (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	静岡県 浜松市	価値が多様化し社会が分断される今の世界では、図書館が人々の対立の拠点になる傾向が生じている。アメリカでは、右派左派両方から禁書に指定された本が増え、図書館が空っぽの学校も増えている。日本でも、人手不足で機能不全の学校図書館が増えている。この時代に、学校図書館を知的交流の拠点としてよみがえらせ、子ども・教職員・地域の人々が学び憩い集う場にする活動には、大きな価値がある。また異動先の各学校において、与えられた立場から、一貫した活動を継続している点にも理念に裏打ちされた教育実践の確かさを読み取れる。
西都銀上学園 西都市立銀上小学校・銀鏡中学校 (日本文化・ふるさと共創教育)	宮崎県 西都市	県内唯一の山村留学特認校として17名の児童生徒を受け入れている。穏やかな山村地域の中で、地域の素材や人材を有効活用しようと工夫している。子どもたちは、はちみつ取りや田植えなどの体験学習から始まり、伝統芸の伝承活動に向き合い、文化祭で披露している。この地域の良さをからだで丸ごと味わっている。責任をもって役割を果たし、地域の方に喜んでもらう。こうした達成感の積み重ねによって、子どもたちに何でもできる安心感や自分を肯定できる自信を与えてくれる環境が、山村留学の銀上学園には用意されている。

【博報賞】受賞数 9件

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
小林 陽介 (北秋田市立義務教育学校阿仁学園 校長) (日本文化・ふるさと共創教育)	秋田県 北秋田市	地域の歴史・文化・魅力を子どもや大人にも親しみやすく郷土資料集として編纂した価値ある取組である。資料集の作成、推進、活用と7年間の経過を追ってその時々の実践内容が明確に伝わってきた。多くの郷土資料集は小学校中学年で活用されているが、「きらり☆きたあきた」は小中学校9年間を想定、あらゆる教育活動における児童・生徒の探究心を支え、学びを広げ深める力が宿っている。北秋田への郷土愛が詰まった資料集を通じて、子どもが地域を知ることによって前に学ぶ様子は魅力的だ。
柏市立大津ケ丘第一小学校 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	千葉県 柏市	ICTの活用が最終目的になってしまう実践が多い中で、あくまでも自分の働きかけで地域が変容するのだという学習経験を子どもが重ねること、そして地域を活性化することを目的にする理念がぶれずに貫徹している点が評価された。特に、子どもたちが学習活動を通じてどのように変化したのかが、応募書類に丁寧に叙述されており、学習成果の確かさが説得的に提示されていた。「自分には社会を変える力がある」と答えた児童が3割から8割に増えたという点には、これからの日本社会がより良い方向に変わり得るという希望が見いだせる。
特定非営利活動法人 心魂プロジェクト (特別支援教育)	神奈川県 横浜市	難病や障がいのある子どもとその家族を対象として、「劇場に来るのが難しいなら、私たちが行けばいい」との思いで劇団四季や宝塚歌劇で培った本格的な舞台芸術の公演を届け続けて、心が動く体験や自分らしさを発揮できる時間の創造に継続して努めている。また、子どもたちがパフォーマーとなる「心魂キッズ団」では、子ども一人ひとりの「伝える力」を引き出そうと、個性や特性に応じた表現活動を個々に工夫することによって、子どもの主体的な取組が生まれ、自己肯定感を高める活動である点も高く評価された。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
いわふね 岩船 尚貴 （柏崎市立南中学校 教頭） （国語教育） 【活動タイトル】 ふるさとをことばで継ぐ子どもたち ～郷土作家を起点とした物語創作と文学交流～	新潟県 柏崎市	個人の活動ではあるが、学校全体、さらには学校を超えた広がりのある活動となっている点、また、郷土作家を起点としながらも、作品の読解にとどまらず、物語を創作したり、他県や海外の同世代の生徒と意見交換を行うことで同様の作家や作品とを比較分析したりといった、多様なことばの学びが実現されている点が高く評価できる。 全国には、地域にまつわる文学作品や地域に根ざした行事などが多く存在する。岩船尚貴氏の実践は、それぞれの地域に応じて再構成が可能であり、他の教育現場にとって多くの示唆を得られる実践である。
大鹿村立大鹿中学校 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 生徒と地域で紡ぐ中学校歌舞伎公演会 ～ 50年の軌跡と未来へつなぐバトン～	長野県 下伊那郡 大鹿村	50年にわたり中学生による歌舞伎を支えてこられた地域の教育力、生徒一人ひとりが自信をもてる充実した学び、少人数の生徒数という課題を乗り越え、持続可能な仕組みで公演を続けられてきたことが高く評価された。大鹿中学校における歌舞伎の取組は、生徒がふるさとの伝統に誇りをもち、地域の人々の支えを受け止め、自身の主体性や内面の成長を育む確かな教育活動と言える。まさに地域と学校が連携して教育を進めるコミュニティ・スクールのモデルとなる。未来につなぐバトンということで、今後への期待も高まる。
学校法人 ムンド・デ・アレグリア学校 （日本語教育） 【活動タイトル】 母語教育で「豊かな心」と「考える力」を、 日本語教育で「生きる力」を	静岡県 浜松市	母語による教育と日本語教育の両方を丁寧に行うことにより、子どもが自らのアイデンティティーを確立し、学力や日本で生活するための適応力を身につけることが可能になっている。存続の危機に見舞われながらもさまざまな立場の人々からの協力を得て、現在では地域に根づいている様子がよく分かる。とても素晴らしい実践で、国語教育の立場からも学ぶところが極めて多い。子ども一人ひとりの母語の学びと日本語の学びを充実させるために、ひらがな表や漢字指導法などのメソッドが多彩に生み出されていることを高く評価することができる。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
三木市国際交流協会 （国際文化・多文化共生教育） 【活動タイトル】 多文化多言語の子どもとの 居場所づくりを通して共生を学ぶ	兵庫県 三木市	子どもたちの状況を勘案し、子どもたちに寄り添い、居場所を提供している様子がうかがえる。また、そうした支援者の存在が、子どもたちの学びや成長を促し、次の一步を生み出している。教室にとどまらず、体験活動で子どもたちが主体となる機会を設定していること、「Sコイン」プロジェクトにより地域住民と子どもたちが触れ合う機会を創出していることなども、高く評価された。 日本語を学ぶだけでなく、さまざまな人と関わる機会を通して、子どもたちが地域の一員として成長していく取組の継続と発展を期待する。
あさひがおか 倉敷市立旭丘小学校 （国語教育） 【活動タイトル】 豊かな読書生活の推進 ～ことばの力をもとに豊かな人間形成を図る～	岡山県 倉敷市	「読書通帳」や「推薦図書」、読み聞かせ、『『おすすめの本』読書ビンゴ』などの工夫によって、子どもたちの生き生きとした読書活動を生み出していることが素晴らしい。子どもが他の読者とつながることによって、一人ひとりの読書行為は活性化され、読む文化が育まれるということを豊かに実践し、証明した。また、協働の読書活動を通じて、人と人との関わりを築く「ことばの力」が育つことを明らかにし、「ことば」への信頼を育てる。そのことが人の成長に何よりも大切なことだと旭丘小学校の取組は教えている。
津山市立西小学校 （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 100年後も豊かな津山城西へ！ ～学びの意義を高めるPBLの実践～	岡山県 津山市	津山市立西小学校は、学校教育目標の具現化に向けて、総合的な学習の時間を中核として学習活動に取り組んでいる。特に、児童が日常生活の中で感じる問題意識を起点にして、企画書を作成し、社会とのつながりを意識して課題を解決していく必然性を感じられるようにしている。また、児童一人ひとりが自分のペースで探究的に学べるように、専用ポータルサイト「Wiz」を構築し活用していることは、これからの教育に求められる教育支援の在り方として評価できる。

【功労賞】受賞数 8件

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
神田 ^{まさひこ} 昌彦^{ひろさき} (弘前市立南中学校 校長) (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動) 【活動タイトル】 環境再生活動の普及と定着を目指したESDの展開	青森県 弘前市	近年の自然環境の変化により、自然と人間との関わり方が見直されるからこそ、生徒一人ひとりが自分と環境との関わりを地域で学ぶ意義がある。そこで環境問題に視点を当てて、白神山地を教材化して総合的な学習の時間や理科などで、自然環境を再生させる活動に取り組む。また、地域の団体と連携・協働し、継続的な取組となるようにした。さらに、理科の授業で、白神山地の環境について模擬実験を通して理解を深めることなどの教材研究も深く、体験を通して学ぶことで深い意味理解を促す学習過程を創造している点が評価された。
地球っ子グループ (国際文化・多文化共生教育) 【活動タイトル】 外国ルーツの子どもたちの 全人的成長を目指した地域での活動	埼玉県 さいたま市	日本語学習が必要な子どもたちのみならず、保護者やOB・OGも含めたサポートが丁寧に提供されている取組には、目を見張るものがある。特に日本語学習に必要な教材に関して、子どもたちの個性やバックグラウンドに応じて形式陶冶を念頭に置き、創意工夫を凝らしつつオリジナリティあふれる検討がされている。また、学習を進める子どもたちのモチベーションを維持させるべく、仲間や地域との関わりの中で「学びたい！」「分かった！」といった経験が蓄積されるような教育実践が重視されている。
きみつ少年少女合唱団 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動) 【活動タイトル】 被災地に「歌のちから」を届け続ける子どもたち	千葉県 君津市	地域に根ざした合唱団活動が、25年にわたって継続されていることが評価された。アメリカ同時多発テロをきっかけに「歌で誰かの力になりたい」と願う子どもの思いが継続の原動力になっていること、合唱を通してグローバルな視野をもつ多彩な支援活動が展開されていることに独創性がある。被災地宮城県に毎年合唱団として赴くことも、決して容易ではないであろうに、コロナ禍での中断も乗り越えて子どもたちが活動を復活させたこと、保護者やボランティアが途切れることなく現れて団の運営を維持していることにも、心から敬意を表したい。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
特定非営利活動法人 しゅわえもん (特別支援教育) 【活動タイトル】 聞こえない大人（ろう者）が ろう児に手話で自己表現する場を提供する	東京都 杉並区	聴覚に障がいのある子どもには、言語習得においてさまざまな課題があることが以前から指摘されており、そうした子どもとその家族を支援するために、2005年から19年間にわたり、継続的に取り組んできた活動である。人工内耳や補聴器を使って聴覚を活用する聞こえない子どもの言語習得において、聞こえる保護者がその支援に十分な役割を果たすことは、決して容易ではない。主なスタッフである聞こえない大人がロールモデルとなるこの活動は極めて重要であり、子どものことばの獲得に大きく貢献している点が高く評価された。
上越市立谷浜小学校 (日本文化・ふるさと共創教育) 【活動タイトル】 地域連携による「ふるさとに愛着をもち、 地域と共に歩む子ども」の育成	新潟県 上越市	1980年から44年以上にわたり、公立小学校において継続して地域の環境を教材にした教育を実践している。学習指導要領が改訂されたり、教員の異動があつたりと、継続した実践が公立学校においてできたのも、児童のふるさとに対する願いや想いを大事にしてきた結果だと言えるだろう。44年間にわたり自然や歴史に積極的に関わり、繰り返し学ぶことによってふるさとへの愛着を高める教育を積み重ねてきたことは、貴いことと言える。教師が地域の諸団体や住民と交流し、地域のリソースを活用できるように挑み続けてきた努力の証である。
^{しゅうなん} 周南市立八代小学校 (日本文化・ふるさと共創教育) 【活動タイトル】 八代の自然を守り継承する八代っ子の育成 ～ナベヅルの保護活動を通して～	山口県 周南市	ナベヅルの保護を中心として総合的な学習の時間や特別活動など、カリキュラムを柔軟に組んで学びが拡張していく。水辺の生態系に関する知識を得ながら水質調査、環境整備、つる日記の作成、それらの活動を周知する発表の場など、ナベヅル保護に関する探究的な学習が充実している。学校生活の軸に、また、子どもの心にナベヅルがいて、ときに、見える／見えないナベヅルと対話をしながら学びが展開していく。子どもが保護活動に取り組むことは地域住民にとって明るい希望であり、地域活性化につながる点も高く評価された。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
NP0法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと （国際文化・多文化共生教育） 【活動タイトル】 外国ルーツの子どもたちの日本語教育、学習支援 進路保障および居場所づくり	熊本県 合志市	かつては散在し、各々の場所で行われていた子どもたちへのサポートをネットワーク化し、支援者同士の連携が強化されたこと、加えて、中心的機能を発揮し、熊本県内の子どもたちへの支援をリードした取組は、大変素晴らしいものである。その結果が、すべての子どもたちがサポートを受けられる、今日の状況につながっている。子どもたちも自他の「良さ」に目を向け、自分自身のキャリアと真剣に向き合っている。この実践がモデルとなり、子どもたちへのサポートネットワークが多くの地域で構築されることが期待される。
つの都農町立都農中学校 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 地域文化の継承と子どもの成長をつなぐ学び～都農神社夏大祭を中心に据えた実践～	宮崎県 児湯郡 都農町	都農神社夏大祭に中学生が参画する実践。1987年から長きにわたり継続されてきたことも高く評価された。開始当初は、その時代における中学校特有の課題を解決すべく、地域の教育力を必要とした切実な取組だった。夏祭りの歴史や背景を知り、準備から運営に至るまで生徒の手で行う様子は、地域文化の担い手としての中学生の姿を具現化する好事例である。祝祭性の中で地域が“みんなの居場所”となり行事をつくり上げることは、生活に元気が漲り、子どもから大人まで、地域全体が笑顔になることを本実践は示している。

【奨励賞】受賞数 15件

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
豊岡 大画 （太田市立城東中学校 教頭） （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 4コマ漫画指導案を活用した、授業改善につながる持続可能な研修の取組	群馬県 太田市	4コマ漫画指導案づくりは、教員の指導力向上、単元全体や本時を俯瞰的に見る目、授業を起承転結で捉えることなどの良さを明らかにした。また、4コマ漫画指導案を基にして質の高い授業を実践した。このことは、4コマ漫画指導案を構成する要素に、見方・考え方を働かせた学習活動、教師の発問、子どもの活動や発言など、指導に必要なことが端的に明示されているからである。このような分かりやすい指導案は、教育関係者以外の授業づくりの理解にもつながり、社会に開かれた教育課程の実現に向かうことが評価された。
南房総三龍亭 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 キッズ落語プロジェクト	千葉県 南房総市	落語などの伝統的な言語文化の学び手が地域文化の担い手として成長するプロジェクトである。元小学校教員が中心となる「南房総三龍亭」は、学校への出前授業に加え、地域での公演や夏休みの落語教室など多様な活動を展開し、子どもが落語や講談を通じて成長する姿を支えている。本団体が学校教育での経験を活かし、地域と学校を豊かな文化でつなぐことに貢献していることにも敬服する。子どもが一人で舞台に立つことの重みとやりがいの中で、地域の人々からの賞賛を得て自信をつけていく過程は意義深いものである。
特定非営利活動法人 メタノイア （国際文化・多文化共生教育） 【活動タイトル】 難民申請者の子どもと地域社会をつなぐ日本語教室「Mutluわらび」	東京都 足立区	制度的に不安定な立場に置かれたクルド人の子どもたちに、丁寧なアセスメントによる学習支援や、「Mutlu day」のようにクルド語を用いて自由に過ごせる機会の提供は、子どもたちの学びや自己肯定感の向上に大きく寄与している。また、当事者性のあるクルド人スタッフの存在も、子どもたちが自身の可能性に気づくために大きな役割を果たしている。これらの点が大きく評価された。 当事者団体とも連携していることから、当事者との共創モデルとしてさらに活動を発展させ、発信していくことを期待する。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会 （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 絵本で子どもたちの世界をひろげるプログラム	神奈川県 藤沢市	絵本プログラムとして、日本の中学生、インドネシアの大学生、アジアの貧困や孤児院の子どもの三者をつなぐことを目的に活動している。特に、インドネシア語の絵本にするために、生徒が翻訳を切り貼り作業することは、文化の特徴や生活の様子に対する理解を深める。また、こうして作成した絵本を使って、現地のインドネシアの学生が読み聞かせをしている映像を、日本の中学生が見ながら、感じたり考えたりしたことを伝え合うことで、双方向の交流を生み出しており評価された。
樋口 大輔 （新潟市立浜浦小学校 教諭） （国語教育） 【活動タイトル】 子どもの笑顔があふれる教室 ～〈漫才〉を音読する国語の実践を通して～	新潟県 新潟市	漫才に着目することで、音読に関する実践にとどまらず、子どもたちが間違いに萎縮せず互いに認め合い学び合う、温かい学級の雰囲気づくりにも寄与する実践となっている点が評価できる。その成果は、失敗を恐れず挑戦する気持ちや自己肯定感に関する調査結果が、全国平均と大きく差を広げて高いことにも現れている。 音読に関しても、聞き手を想定して内容を吟味しながらノンバーバルも含めて工夫するなど、子どもたちの学びにつながっている。さまざまなことばの学びにつながる可能性のある実践を、さらに深め進められることを期待したい。
あわら市^{かなづ}金津中学校 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 「あわら考幸学」の推進	福井県 あわら市	2022年からスタートしてまだそれほど時間的経過はないが、年間カリキュラムがよく練られており、大学のラウンドテーブルでの成果発表も経験している。幸せとは何かを大テーマとして「あわら考幸学」と題した教育プログラムである。修学旅行と課題づくりや発表の場を設定するなど、他の行事と上手に関連させている。3年生の論文はデータに基づいた理論構築をしており、きちんと仕上げられている。思春期の時代の微妙な生徒の心情に寄り添った課題づくりを丁寧に進めて、さらに笑顔の見える活動に発展させてほしいと願っている。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
裾野市東地区おやじの会 （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 毎月開催の「何にもしない合宿」をベースとした日常の関係づくり	静岡県 裾野市	「何にもしない」活動を継続するという点が斬新で、独創性がある。年に一回のキャンプよりも、毎月のお泊り会によって、互いに顔の見える関係、名を呼びあえる信頼関係を長期的に醸成することの方が重要という理念は、非常に大切である。異学年の子ども同士のタテの関係、子どもと地域の大人が名前を呼びあえる関係、地域の大人同士の関係が深まり、地域のコミュニティが形成されることは、意義深い。活動を伝える写真には、子どもたちの自然な笑顔がたくさん輝き、子どもが自分の過ごしたいように過ごせている場の雰囲気が伝わってくる。
北名古屋^{しかつ}市立師勝北小学校 学校運営協議会 （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 地域と共にある学校づくり ～互恵的な諸活動を通して～	愛知県 北名古屋市	校長の学校運営を承認するだけでなく、学校の教育活動を支援したり、レクリエーション活動など独自のイベントを主催する学校協議会である点に、独創性がある。また、10年の経験を経て、子ども自身がアイデアを出すようになったり、学校に関わる各種団体の連携拠点として機能し地域の団体が活性化したりするなど、学校を中心とする地域コミュニティが醸成されていることが伝わってくる。子どもと学校と地域を能動的につなぐ役割を果たす点で、これからの学校運営協議会のモデルの一つになるのではないかと。
京都市立^{しもぎょうみやび}下京雅小学校 （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 幼少一体型の研究組織の構築 YMOプロジェクト ～ Yobai-Miyabi-organization ～	京都府 京都市	全教職員や地域・保護者の共通理解のもと、「探究・ふれあい・誇り」が高まる教育活動を行っている。生活科では、環境構成の工夫によって子どもが思いや願いを実現できるようにしていたり、総合的な学習の時間においては、単元の本質に関わる場面で対話を活性化し、子ども一人ひとりの興味・関心に応じて子どもに任せる時間を保障したりしている。こうした子どもの主体性と教師の指導性が発揮されるバランスを取っていることが、具現化された実践であると評価された。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
きづがわ いずみがわ 木津川市立泉川中学校 （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 つなぐ平和の学び ～友情は国境を越えて 姉妹校との半世紀ぶりの交流再会～	京都府 木津川市	木津川市立泉川中学校と、51年前まで交流があった沖縄の学校との交流を再開したり、交流に関わる地域住民を地域の祭りで巻き込み、関わる人々を増やしたりした。こうした取組を生徒が主体性を発揮して、探究的な学びを連続・発展させている。それとともに、生徒の探究を支えるために、「地域コミュニティルーム・Peace加茂」を設置したり、教員間の連携を図ったりしていることで、持続可能な取組となっている。これらの点が評価された。
やすざと たけし 安里 健志 （大和高田市立浮孔西小学校 教諭） （特別支援教育） 【活動タイトル】 通級指導担当教員が実施する 児童の障がい理解を深める教育活動	奈良県 大和高田市	通級指導の対象となる児童生徒が急増する中、全国で取り組みたい優れた実践である。毎日の学習や生活の中で困難を経験している発達障がい児が自分と向き合うことは容易ではない。しかし、専門性の高い指導の中で自分への気づきを高めるとともに、自分にとって通級指導教室で学ぶことの意味づけが行われている。通級指導を利用する児童の願いをもとに、波及効果の高い発達障がいの理解啓発学習を教育課程に位置づけて実施していることも評価できる。小学校低学年や中学校での実践を積み上げ、系統的な障がい理解教育プログラムの開発を期待したい。
いばら あがためし 井原市立県主小学校 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 ふるさとの未来を願い、 児童の思いを実現する探究学習	岡山県 井原市	総合的な学習の取組一つひとつが児童の願いや思いからスタートしている。この基盤になるものは、日々の授業への取組である。学習においてギミックブラッシュアップシートを開発・更新して児童主体に変えたことで、「そんなのは無理」ということばが学校全体から消え、周りの人の声を聞き主体的に対応できている。ここまでには保護者や地域が協力から協働へ変化したことに加えて、組織のマネジメントでも斬新な工夫がある。職員のリーダー会はすぐに教育課題を取り入れ、若手を育成したりできる持続可能で先駆的なマネジメントである。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
わ け 和気町立佐伯小学校 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 「ひと・こと・もの」とつながる 佐伯小夢プロジェクト	岡山県 和気郡 和気町	統廃合された旧小学校の清掃活動からスタートした児童の活動に、上手に総合的な学習の時間を組合せ、地域住民との交流も積極的に進めている。低学年から地域活性化の課題意識を育てていく取組の裏側には、綿密な指導者の検討が拝察される。学びへの児童の意欲を継続させるために、数値目標を定めて役立たせている点は、初等教育において新しい試みだと考える。児童は中学校へ進学して、地域への視野が広がる。小学校区で学んだことを核にした学びが広がる可能性を感じる。小中連携を深め地域の未来を創る人づくりにつなげてほしい。
広島県肢体不自由特別支援学校 自立活動研究会 （福山特別支援学校、広島特別支援学校、西条特別支援学校） （特別支援教育） 【活動タイトル】 3校の協働で積み上げる肢体不自由のある 子どもの主体的な学びに向けた実践	広島県 福山市	肢体不自由教育は、肢体不自由と知的障がい、感覚障がい、医療的ケア等の重複化が進み、一人ひとりの多様な実態に対して専門性の高い指導が求められている。これまで培われてきた指導の知識や技術をいかに継承していくかも大きな課題となっている。広島県肢体不自由特別支援学校自立活動研究会の取組は、それらの課題に対して大きな示唆を与える実践である。持続可能な取組となるために、校内で組織的に取り組む体制づくりや、研究会を輪番で担当するなどの工夫も評価できる。肢体不自由教育を担う学校や学級で参考にしたい実践である。
さいと つまみなみ 西都市立妻南小学校 （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 ふるさと西都を未来につなげよう ～SDGsプロジェクト in 妻南小～	宮崎県 西都市	SDGsに関する学習活動は、ごみ拾いなど、面白くない・その場限りの表面的な活動になりやすい。しかし妻南小学校では、子どもが「自分ごと」と思える問いをもてるように、導入の段階で丁寧な支援が行われ、それによってリアルな情報収集、粘り強い探究や情報発信活動へと発展してきた。 探究に値する「問い」を自分で立てることはあらゆる学習の土台であり、子どもの問いを起点にする教育課程の理念は秀逸である。発表シートには子どもたち自身が苦悩し、探究し、解決活動を探っていく道筋がよく表現されている。